して居つた輩もある。然しそんな連中には河野さんのよい所は分らないのである。河野さんの子供らしい純真さを示す一例としては先年県から文化の日に表彰された時の事がある。其の前年に寧ろ河野さんより後輩の人が表彰されたに拘わらず河野さんには何の沙汰も無かつた。之れは推薦に当つたあの地方の某校長が小細工をしたのである。あの人のよい河野さんもさすが腹に据え兼ねたと見えて私の所に其の鬱憤を洩らしに来た。私は之を伜に話して伜から県の当局に話して貰つた結果、直ぐに河野さんも表彰される事になつた。其の時河野さんは子供の様に喜んで表彰式の帰途態々杵築に下車して記念品に貰つた重たい置時計を抱えて私の所に見せに来たものである。真に可愛いおぢいさんだと思つた。

河野さんには一女一男があり、長女は他に嫁した。長男は大変出来のよい子で河野さんも後年を楽しみにして居り、周囲の人々も大いに期待して居つたが不幸脳を病んで歿したので長女の子供を貰つて養つて居つた。之が成長するまで長生きせねばならぬと口癖の様に云つて居つたが突如として長逝せられたのは気の毒である。河野さんは酒も呑まず煙草も吸わず、やせ型であつたのに意外にも脳溢血で逝つた。真に突然であつた。朝、他出から帰つた所に来客があり、対談中にガツクリと伏して其のまゝであつたそうな。遺族は困ろうが河野さんにして見れば後の事を心配する暇も無く、知らぬ間に死んでしまつたのであるから、却えつて幸福であつたと云えるかも知れぬ。

（本会顧問、大分県史料刊行会監修委員、文学博士）

質疑應答

竹内節三に就てお答

久多羅木儀一郎

昨年三重の土生米作氏から大分の竹内節三のことに就て質問を受けたので、荷揚町の竹田家の子孫や、竹内家の檀那寺浄龍寺の過去帳等を調べたが、遂に得る所なく、そのまゝに打過ぎて甚だ失礼しています。最近序があつて市役所所蔵の除籍簿を調べたところ、漸く分明したので、延引ながら左にお答え申します。

節三は竹内円平（淡転）の二男で文政十二年四月七日に生れた。竹内駿策の養子になり明治十一年当時は大分師範学校に在勤中であつた。旧千歳村の壬申戸籍によると、明治十五年山津の森謙三の二男央を養子にしているしかるに央は死亡したか離縁となつたと見えて、同十九年杵築の美重田氏から心というを養子にして、節三は明治二十一年十二月二十六日死亡しているから、行年六十であつた。

（東浦）